

# 山と博物館

「山と博物館」は、大町市役所および市内社会教育施設で、設置・配布しているほか、博物館公式 Web サイトからもご覧いただけます。

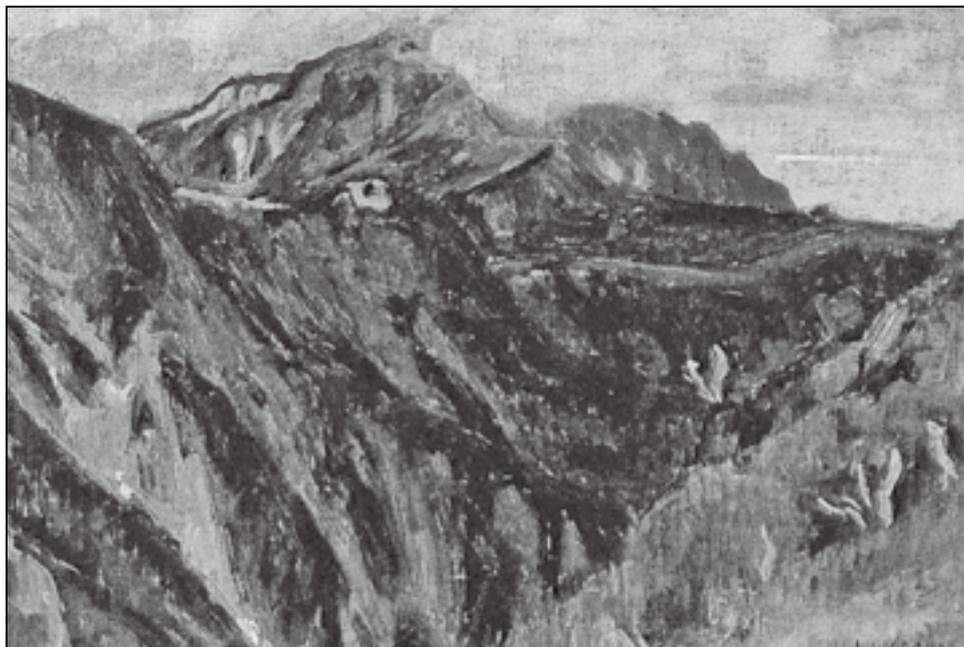
## 7月号

第59巻 第6号  
2014年

無料  
Free

も  
く  
じ

今月の1枚.....	1ページ
・日本山岳会から新たな資料の寄託を受けました	
さんばく研究最前線 -北アルプスの自然と人 トピックス-	2ページ
・針ノ木峠の歴史から北アルプスと人とのかかわりを探る	
展示・イベントのご紹介 .....	3ページ
・「日本山岳画協会 大町展」 ・さんばくこども夏期だいがく	
・常設展スポットガイド	
博物館ひろば .....	4ページ
・どうぶつ写生画審査会	
・市内の幼稚園・保育園が遠足で館内展示や付属園を見学!	
・TCA 専門学校の見学学習 ・第一中学校の職業体験学習	



茨木猪之吉「針之木峠（夏）」（油彩・板 F4号）  
〔公益社団法人日本山岳会蔵〕

日本山岳会から新たな資料の寄託を受けました

関 悟志

山岳博物館では、1981（昭和56）年から、公益社団法人日本山岳会（事務局：東京都千代田区）が所蔵する山岳・美術資料を寄託という形で拝借し、館内で保管しています。これまでに165点の寄託資料をお預かりし、そのうちの一部は当館の常設展や企画展で展示紹介してきました。

このたび、同会が所蔵する山岳画家・茨木猪之吉（いばらきいのきち）作の油彩・水彩画やスケッチ帳などの美術資料84点について、本年度から新たに当館で寄託を受けることになりました。

茨木猪之吉は明治末から昭和初期に活動した山岳画家でした。思うままに山旅を重ね、絵筆と画帳を携えて画題を求めながら山野を駆け巡り、山岳風景を描き続けました。その作画の中心は日本アルプスで、とり

わけ北アルプスへの山行は多く、大町を含めて松本から白馬まで安曇野中心に毎年のように旅をしました。水彩・油彩のほかにも、スケッチが巧みで、岳人たちのユーモラスな似顔絵や山旅での様子などを残しました。また、山岳画家として名をあげてからは、日本山岳会の機関誌『山岳』をはじめとして、山岳関係の図書に多くの挿絵や表紙絵を提供しました。

今回寄託を受けた新たな資料には、北アルプスや大町市にゆかりのある山岳画が含まれ、描かれた風景や人物などから、明治・大正・昭和初期の地域の様子が見てとれます。これらの資料について今後、展示などの教育普及や調査研究に活用していきたいと考えています。

（市立大町山岳博物館 学芸員）

# さんぱく研究最前線 -北アルプスの自然と人 トピックス-

## 針ノ木峠の歴史から北アルプスと人とのかかわりを探る 関 悟志

北アルプスを越える峠のひとつ、針ノ木峠。戦国時代の武将・佐々成政による冬の北アルプス越え伝承でも知られます。江戸中期以降、加賀藩では北アルプスを含む黒部川上流部一帯を御縮山(おしまりやま)として一般者の入山を禁じましたが、それ以前から、針ノ木峠越えによる険しい山道は、信州から越中立山方面へと抜ける最短ルートとして、立山参詣などで信州の人びとが行き交っていました。

ここでは、北アルプス山中の峠が持つ重要性に注目し、江戸時代以降の針ノ木峠周辺の歴史に光をあて、北アルプスと人とのかかわりを探ってみます。

### 針ノ木峠とは

針ノ木峠は、長野・富山県境に位置し、北アルプスの針ノ木岳(2,820.6m)と蓮華岳(2,798.6m)との鞍部にある峠です。その標高は2,536mで、南アルプスの三伏峠(2,580m)に次いで日本第2位の高さを有している峠です。

峠には針ノ木小屋があり、夏山シーズンは登山者でにぎわっています。峠までは、長野県側は立山黒部アルペンルートの扇沢駅(大町市平)から麓川沿いに登り、富山県側は黒部ダム湖畔の平ノ渡場から針ノ木谷を遡ります。



針ノ木峠

### 峠が持つ重要性

みなさんご存知のとおり、峠は山道を登りつめて下りにかかる境の場所です。山地が約7割の面積を占める日本国内には、大小約1万近くの峠があるといわれています。

古来、地理的な要因から集落や地域は峠で隔てられ、峠は村境(むらざかい)や国境(くにざかい)となる場合が数多くありました。峠をはさんだ地域では、大小の差はあるにしても、文化や産物にも変化がみられました。峠は、隣接する地域との境界というほかにも、産物の流通路や文化の伝播路としての窓口、あるいは武将にとっては戦略上の要衝という機能を持つ重要な場所でした。

### 江戸時代における針ノ木峠周辺の歴史

—信州・越中境をめぐる争い—

江戸時代、信州側からは野口村の人びとが杣(そま)仕事のために針ノ木峠を越えて黒部峡谷に踏み入っており、黒部川(当時、信州では「だいら川(太良川)」と称していた)を越中との国境と認識していました。一方、越中では加賀藩が針ノ木峠を国境と定めていたことから、国境をめぐる争いがありました。

黒部奥山での森林資源にかかわっていた信州の人びとと加賀藩による争いは江戸中期から続きましたが、江戸後期、1838(天保9)年に江戸城西の丸が火災で消失した際、加賀藩では黒部峡谷の良材を御用材として供出することになり、



「大町組絵図」(部分) 1698(元禄11)年  
個人蔵・大町市文化財センター保管

「たいら川(黒部川) 信濃越中御境」とあり、  
当時、信州では黒部川を信越国境としていたことが分かります。

その折の加賀・松本両藩の交渉により決着をみ、公式に信越国境は針ノ木峠と確定しました。しかし、加賀藩は地理条件から、信州側から針ノ木峠を利用したの搬出を画策し、松本藩の合意を得て信州側の杣たちを雇い、木材伐採・搬出作業にあたらせました。

以降、加賀藩内の報告では、針ノ木谷周辺での盗伐が確認されることはほとんどなくなりました。

### 北アルプスと人とのかかわり

針ノ木峠越えの山道は、時代ごとでその主な役目をかえてきました。例えば、室町・安土桃山時代以前ころは信州と越中を結ぶ交易の道、立山参詣者の信仰の道、奥山の恵みを求める猟師や釣り師の通い道。江戸時代は先述した森林資源利用や国境見分、あるいは信仰の道。明治時代は有料道路として開通した信越連帯新道(針ノ木新道)による物資交流の道と、その道筋を利用した英国人外交官アーネスト・サトウなどの外国人登山者による近代登山の先駆けの道。

大正から戦前の昭和時代は名古屋の素封家・伊藤孝一らによる冬の立山・針ノ木越えや、大町の旅館「對山館」主人・百瀬慎太郎による大沢小屋と針ノ木小屋の建設といった近代登山隆盛の道。戦後の昭和時代以降は立山黒部アルペンルートに発展した水力電源開発と山岳観光の道…。

こうした針ノ木峠周辺の歴史をたどることで、北アルプスにおける山と人とのかかわりが、各時代で当時の人びとの目的や社会情勢、経済情勢などと密接に結びつきながら、移りかわってきたことが分かります。

今回ご紹介した針ノ木峠周辺の歴史については、1階展示室の「峠を越える—針ノ木峠の歴史—」コーナーで、実物資料をまじえて紹介していますので、ぜひご覧ください。

(市立大町山岳博物館 学芸員)



「白木鑑札、表勘定所札」

個人蔵・大町市文化財センター保管  
(大町市有形文化財)

江戸時代、加賀藩「御縮山」の黒部峡谷周辺で御用材の伐採・搬出作業にあたった信州の杣が携帯した入山札です。

# 展示・イベントのご案内

中部山岳国立公園指定80周年記念 大町市制施行60周年・合併10周年記念  
長野県環境保全研究所・市立大町山岳博物館連携協定記念

## 山岳博物館 市民「無料」開放デー

博物館では、毎月第3日曜日（家庭の日）とその前日の土曜日を「大町市民無料開放デー」としています。7月は19日（土）と20日（日）です。なお、7月と8月は無休で閉館しています。

### 「日本山岳画協会大町展」 企画展のご案内

本年度で創立78年を迎える日本山岳画協会（会員24名）による山岳画を展示します。会員が描いた国内外の山岳風景画を展示（第1部テーマ：「日本の山・世界の山」、第2部テーマ：「北アルプスを中心とした山岳画」）。

今年が中部山岳国立公園指定80周年、さらに信州山の日制定年です。この機会に山岳風景画をご高覧ください。

□主催 市立大町山岳博物館 日本山岳画協会  
□後援 環境省長野自然環境事務所、NHK長野放送局、SBC信越放送、TSBテレビ信州、abn長野朝日放送、NBS長野放送、FM長野、大町市有線放送電話農業共同組合、信濃毎日新聞社、朝日新聞松本支局、中日新聞社、読売新聞松本支局、毎日新聞長野支局、産経新聞長野支局、大系タイムス、民友信州、市民タイムス

□会期 平成26年7月19日（土）～11月24日（月）  
※第1部…7月19日（土）～9月15日（月・祝）  
第2部…9月17日（水）～11月24日（月）

※会期中、9月～11月は月曜日、祝日の翌日休館。月曜が祝日の場合は開館し、翌日休館。7月・8月無休

□時間 午前9時～午後5時（入場は午後4時30分まで）  
□会場 市立大町山岳博物館 特別展示室および講堂  
□観覧料

通常の入館料（大人400円、高校生300円、小・中学生200円）  
※常設展示と共通、30名様以上の団体は各50円割引

□関連催し

#### ・オープニングセレモニー

日時 7月19日（土）  
式典：午前10時～午前10時25分  
ギャラリートーク：  
午前10時30分～午前11時10分

会場 山岳博物館玄関・特別展示室・講堂  
・ギャラリートーク

毎回、出展作家らによる描き方や登山時のエピソードなどを交えながら、展示作品の解説を行います。

日時 8月10日（日）、9月14日（日）、  
10月12日（日）、10月26日（日）  
午前10時30分～午後2時～  
（いずれも30分程度）

#### ・ワークショップ

「画家の先生といっしょに北アルプスを描こう！」  
※詳細は、「さんぱく子ども夏期だいがく」イベントのご案内をご覧ください。

### さんぱく子ども夏期だいがく イベントのご案内

今年で5年目となる「さんぱく子ども夏期だいがく」は、下記のとおり2日間行います。夏休みの自由研究にも最適です。ぜひお友だちと誘い合っでご参加ください。

#### ①「画家の先生といっしょに北アルプスを描こう！」

日本山岳画協会の先生が講師になって、北アルプスの山の絵を描きます。はじめに企画展「日本山岳画協会大町展」の展示された絵を見ながら、絵の描き方のコツなどをお聞きし、そのあと、山の絵を描きます。

□主催 市立大町山岳博物館 日本山岳画協会  
□期日 平成26年8月7日（木）※雨天実施  
□時間 午前9時～正午  
□会場 集合：市立大町山岳博物館（写生は博物館前で実施します。なお、雨天時は博物館隣の長野県山岳総合センターで写生を行います）  
□対象・定員 小学生 25名（先着順）  
□参加費 無料  
□持ち物 絵具（水彩、クレヨンなど）、筆記用具、飲み物、帽子、タオル ※紙と画板は博物館で用意します。  
□申し込み 8月2日（土）までに山岳博物館へ電話でお申し込みください（先着順）

#### ②「みんなで温暖化ウオッチ セミのぬけ殻を探せ！」

地球温暖化が身近な自然環境にどのような影響を及ぼしているのかを、セミのぬけ殻を探すことで調べます。

□主催 市立大町山岳博物館 長野県環境保全研究所  
□協力 自然観察指導員長野県連絡会  
セミの抜け殻しらべ市民ネット  
□期日 平成26年8月8日（金）※雨天実施  
□時間 午前10時～正午  
□会場 大町公園（山岳博物館前）  
□対象・定員 小学生以上 20名（先着順）  
□参加費 無料  
□持ち物 飲み物、帽子、タオル、筆記用具  
□申し込み 氏名・郵便番号・住所・電話番号を添えて、電話・ファクス・Eメール等で下記の長野県環境保全研究所へお申し込みください。  
【申し込み先】 長野県環境保全研究所（担当：浜田）  
〒381-0075 長野市北郷 2054-120 電話 026-239-1031  
FAX 026-239-2929 E-mail kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp

### 常設展スポットガイド イベントのご案内

新しい展示となった常設展について、各展示コーナーの具体的な展示資料など、展示のみどころを学芸員や専門員が来館者に解説します。なお、解説する展示コーナーは「山と人」「山の地史」「山と生き物（植物）」のうち、各日でかわります。詳細についてはお問い合わせください。

□主催 市立大町山岳博物館  
□期日 平成26年7月19日（土）・20日（日）・21日（月・祝）、  
8月15日（金）・16日（土）・17日（日）  
□時間 各日とも 1回目…午前10時30分～  
2回目…午後2時30分～  
※各回の所要時間は20分程度で、午前・午後とも内容は同じです  
□会場 市立大町山岳博物館 展示室ほか  
□対象・定員 どなたでも（年齢制限なし）定員なし  
□費用 入館に際して通常の観覧料が必要です  
□申し込み 不要（当日、直接お越しください）

# 博物館のひろば

どうぶつ写生画審査会 平成 26 年 5 月 20 日 (火) 開催

つぎの方は、年間を通して博物館の観覧料が無料です。  
・大町市内在住の 65 歳以上の方  
・大町市内の小学校・中学校に通う児童・生徒の方  
(入場の際、受付にてお名前等をご記入ください)



山岳博物館付属園とそこで飼育・栽培する動植物について、より身近に感じて親しみをもつていただこうと、昨年に続いて今年もゴールデンウィーク期間中に「付属園まつり」を開催しました。付属園まつりのさまざまなイベントの中で、子どもに人気の「どうぶつ写生大会」【写真上】には、今年は 91 名に参加いただきました。動物の特徴などを飼育員にたずねたり、スタンプラリーを行ったりしながら、飼育動物を熱心に観察して描く姿が見うけられ、ご家族で思い思いのひと時を過ごしながらのなごやかな写生大会となりました。

その写生大会の参加全作品を対象にした「ど

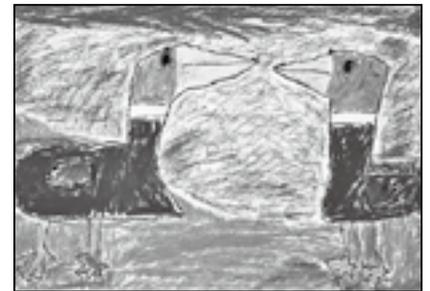
うぶつ写生画審査会」を 5 月 20 日に開催しました。山岳博物館講堂で行われた審査会では、市内の小・中学校の美術や理科の先生方 8 名に審査員を務めていただき、優秀作品 23 点を選出し、これらの作品を日本動物園水族館協会中部ブロック写生大会に応募しました。

その結果、長野県知事賞には大町東小学校 2 年の石田晃平さん【写真右：作品名「かるがも」】、長野県教育長賞には松川小学校 3 年の田中心優さん、日本動物園水族館協会会長賞には小川小学校 6 年の坂井日佳理さん、日本動物園水族館中部ブロック特別賞には大町東小学校 2 年の勝野なな瀬さん、大町市長賞にはしらかば保育園の傘木倅愛紀さん、大町市教育長賞には大町東小学校 2 年の松本奈々さん、山岳博物館館長賞には大町東小学校 2 年の丸山朋也さんが受賞されました。このほか 16 名の方が金賞・銀賞・銅賞の各賞を受賞されました。受賞された皆さんには、7 月 6 日 (日) 午後 3 時から山岳博物館講堂

で開催する「どうぶつ写生画表彰式」で賞状と記念の盾を贈呈させていただきます。

なお、写生大会参加者 91 名の全作品を「どうぶつ写生画展」と題し、6 月 21 日 (土) から 7 月 6 日 (日) まで山岳博物館講堂で展示します。大勢の皆さまのご来場をお待ちしております (写生画展は入場無料。会期中、6 月 23 日・30 日の月曜日は休館)。

最後になりましたが、写生大会の実施に際しては、期間中の毎日、山岳博物館友の会ボランティアサークルの皆さんに受付を担当していただきました。お礼申し上げます。



## 市内幼稚園・保育園が遠足で 付属園や館内展示を見学!



春の大型連休以降、市内のいくつかの幼稚園や保育園が、遠足で当館に訪れました。5 月 2 日には大町幼稚園 (園児 36 人)、5 月 23 日にはみあさ保育園 (園児 12 人)【写真】と、こまくさ幼稚園 (園児 34 人) の園児のみなさんが、付属園や館内の展示を見学しました。

春の陽気のなか、園によっては、博物館前の大町公園で遊んだり、お弁当を食べたりしたほか、付属園内でスタンプラリーを体験したりしていただきました。園児のみなさんは、付属園の動物や 2 階展示室のはく製に、とくに興味津々のようでした。

当館では、身近な博物館として、園児のみなさんの見学を、いつでもお待ちしております。ぜひお気軽に遊びに来てください。

## TCA 専門学校の見学学習

平成 26 年 5 月 23 日 (金) 実施



東京コミュニケーションアート専門学校 (TCA) (東京都江戸川区) が、当館で見学学習を実施しました。北アルプスの自然と付属園での保護動物への理解を深めることを目的にしたもので、同専門学校のエコ・コミュニケーション科、野生動物保護専攻の 1・2 年生 26 人が館内の展示や付属園で施設を見学し、当館職員が解説を行いました。同専門学校では、毎年、大町市内でフィールド実習を行っており、その初日の導入部分のプログラムとして当館で見学実習を行っているとのこと。

当日は、フィールド実習初日ということで、参加した学生同士が、館内の展示資料をピックアップしてのショートスピーチを交え、自己紹介する姿もありました。

## 第一中学校の職業体験学習

平成 26 年 6 月 3 日 (火)・4 日 (水) 実施



山岳博物館では毎年、市内や近隣町村の中学生・高校生の職業体験学習の受け入れを年間随時、実施しています。当館で体験していただく内容は、付属園での動物飼育管理業務です。

今年度の当館での職業体験学習のトップをきって、第一中学校 2 年生 2 人が 2 日間の学習を行いました。2 人とも動物がとても好きで自宅でペットを飼っており、山岳博物館を希望したとのことでした。

実習中の 2 日間、毛虫の大発生によって付属園を閉園にしたため、園内で来園者と接する機会がなく残念でしたが、餌の調理・給餌、飼育舎の清掃、園内の整備という通常業務はひと通り体験していただきました。今後の進路の参考になれば幸いです。

編集・発行



〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1  
TEL.0261-22-0211 Fax.0261-21-2133  
✉ E-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp  
URL:http://www.omachi-sanpaku.com

7 月号  
第 59 巻第 6 号

発行日 2014 年 6 月 25 日  
印刷 株式会社 奥村印刷所  
〒398-0002 長野県大町市大町 2470  
TEL.0261-22-0205 FAX.0261-22-1345